

## [概要]

本研究では、ダム建設に伴って住民が集団移転を選択した集落における周辺地区との繋がりの変化について検討した。岐阜県高山市の丹生川ダム建設に際して水没した旧五味原集落を事例に取り上げ、ダム建設に至る経緯と移転後の集落社会について資料調査および聞き取り調査を行った。

結果、移転した旧五味原集落は、移転先である大萱地区の一員として生活を送る中で、旧五味原集落のまとまりや文化も部分的にはあるが維持していることが明らかになった。一方で、長年地域活動を共にしてきた折敷地地区との繋がりには失われている。この繋がり喪失には、移転先をめぐる対立という水没移転に特有の問題が影響している。五味原集落と折敷地地区は、移転に伴って物理的な距離が開いただけでなく、地域間の繋がり自体が切れてしまった状態と見ることができる。

キーワード：ダム建設，水没移転，集団移転，コミュニティ再編